

9月になると進路部では、就職試験に必要な応募書類の確認や、生徒の面接練習などで慌ただしくなってきました。9月16日の就職試験が解禁され、本校からは先陣をきって、11名が受験します。

■ 就職ガイダンス（7月24日実施）

卒業年次就職希望者19名に対し、就職ガイダンスを実施した。このガイダンスは、厚生労働省委託事業で、2名の講師を招いて行った。「自己PR文を作る」という時間では、自己PRのシナリオ作りを学んだ。高校生活の中からネタ（部活動・委員会活動・学習等）を探し、ひとつのテーマを決めて、楽しかったこと、工夫、努力したことなどを書き出す方法を学んだ。午後は「模擬面接」に取り組んだ。生徒が面接官、見学者に分かれて、応募者（受験者）の受け答えをチェックした。講師からは、生徒一人一人に的確なアドバイスをいただいた。



■ 進路ガイダンス（分野別説明会）

入学年次・中間1年目の生徒を対象に、分野別説明会を実施した。進学希望の生徒は、情報・看護・コンピュータ・保育・建築・文学など26分野から、2分野を選択して、大学や専門学校では「何をどのように学ぶのか」「将来何に役立つのか」などの説明を受けた。また、就職希望の生徒は10事業所から2つ選んで仕事内容を聞いた。

生徒の感想：「これから勉強する上で、自分は何が得意かを見つけることが大事だと教わった。」「サービス業は、チームワークが大切な仕事だと教えてもらった」

■ 進路ガイダンス（模擬講義）

卒業年次・中間2年目の生徒は「模擬講義」「体験授業」を体験した。生徒たちは、大学や専門学校の先生から、大学等に入学しなければ聞けない専門分野のお話を、直に聞くことができ、貴重な経験となった。

主なテーマ

「生成AIの利活用」「心を病むとはどういうことか」「幼児の造形活動を追体験してみよう」
「地域経済のおはなし」



■ 新聞制作の工夫を学ぶ

9月10日（水）の総合的な探究の時間で、中間年次2年目の生徒たちは、東奥日報販売局専任局次長の三浦博史さんから、新聞の紙面作りを学んだ。

講師の三浦さんは、「新聞記事は、結論から書くこと。」「工夫した見出しで読者に印象づけることが大切」「自分の言葉で文章を書く楽しさ」などの話を紹介して下さいました。最後に、三浦さんから、「みんなが作る新聞の出来上がりが楽しみです。」と、エールを送ってくれました。

■ インターンシップ実習に参加して

○ 青森菅公学生服（株）

・〔学習成果〕制服には、光によって色が変わる生地が使われ、人の内面を意識していることがわかった。その内容をプレゼンし、SNS投稿や店員体験にも挑戦した。

○ 聖ヤコブ幼稚園

・〔学習成果〕先生方が、普段会話する声の高さと、子どもたちに話す声の高さが違うことから、子どもたちに聞き取りやすい声の高さがあることに気づいた。

○ イオン青森店

・〔学習成果〕売場の衣服を明るい色から濃い色へ、サイズの順番に陳列するなど、お客様の目線に合った売場作りがされていてすごいと思った。